

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第38週 2024年9月16日（月）～2024年9月22日（日）2024年9月26日作成

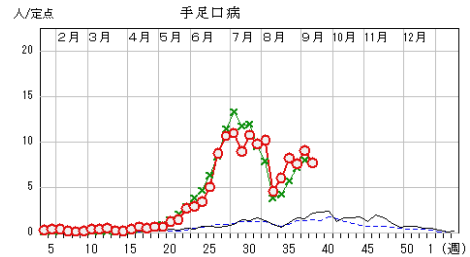
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）手足口病

第38週の報告数は339人で、前週より60人少なく、定点当たりの報告数は7.70であった。

年齢別では、1歳（78人）、2歳（70人）、3歳（51人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（13.80）、県央保健所（12.14）、佐世保市保健所（8.83）であった。

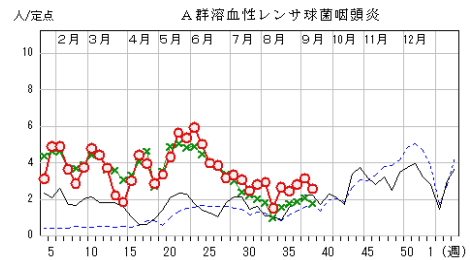


（2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第38週の報告数は113人で、前週より26人少なく、定点当たりの報告数は2.57であった。

年齢別では、10～14歳（22人）、4歳（18人）、6歳（12人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（11.20）、対馬保健所（7.00）であった。

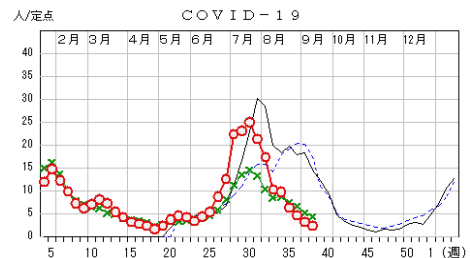


（3）新型コロナウイルス感染症

第38週の報告数は166人で、前週より60人少なく、定点当たりの報告数は2.37であった。

年齢別では、10～14歳（23人）、80歳以上（22人）、70～79歳（17人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（3.88）、上五島保健所（3.67）、壱岐保健所（3.33）であった。



○ 当年(長崎県) 前年(長崎県)
 × 当年(全国) 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【手足口病】

第38週の報告数は339人で、前週より60人少なく、定点当たり報告数は7.70でした。6月中旬より14週続けて警報レベルの報告数となっています。地区別にみると、多くの地区で前週より減少しましたが、五島地区、壱岐地区、対馬地区をのぞく地区で警報レベルが継続しています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第38週の報告数は113人で、前週より26人少なく、定点当たりの報告数は2.57でした。地区別にみると県南地区（11.20）、対馬地区（7.00）は、警報レベルの報告数となっています。今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第38週の報告数は166人で、前週より60人少なく、定点当たり報告数は2.37でした。地区別にみると、長崎地区（3.88）、上五島地区（3.67）、壱岐地区（3.33）は他の地区より多くなっています。8週続けて減少していますが、今後も動向に注意しましょう。

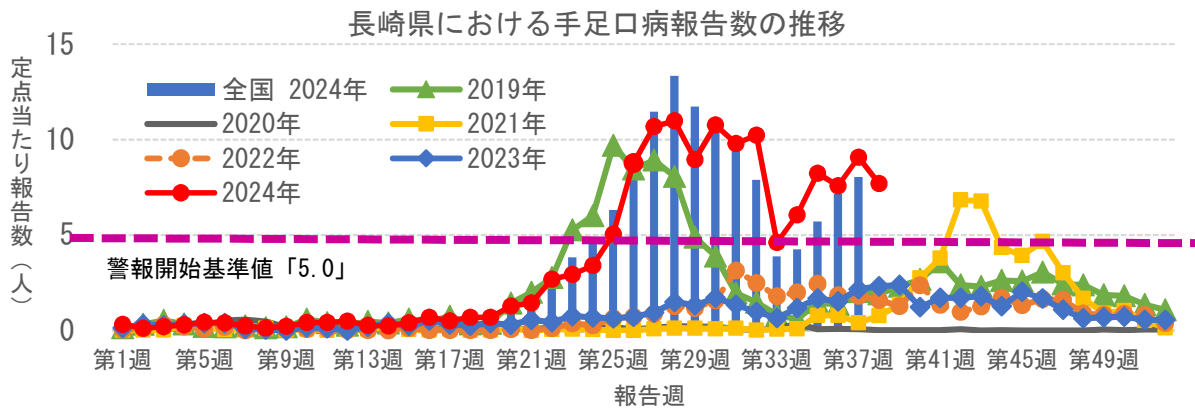
本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

★トピックス：手足口病が流行しています

手足口病は、四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

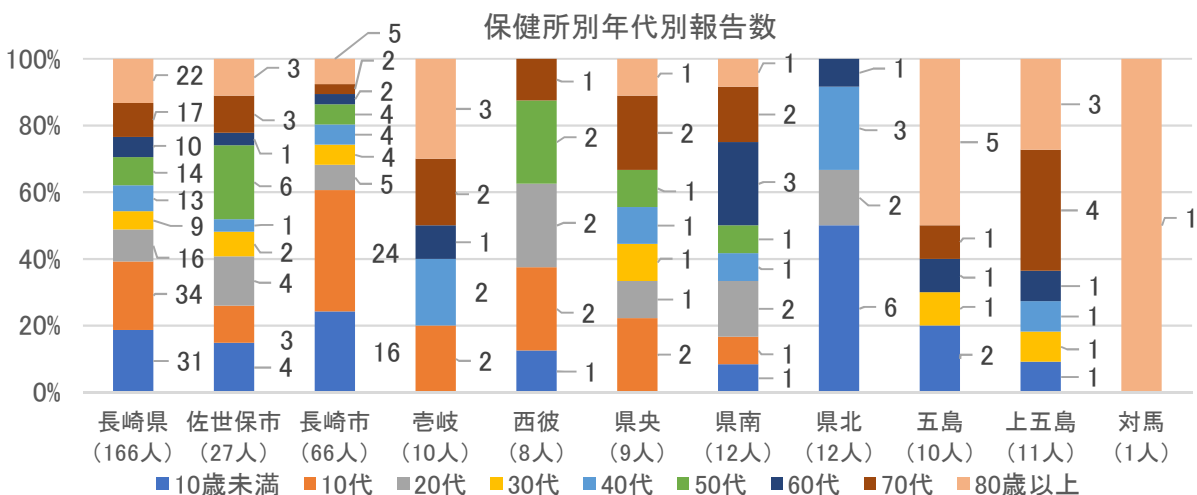
長崎県の第38週の定点当たり報告数は「7.70」で、警報レベルの報告数が14週間継続しています。地区別でも、10保健所のうち、五島、壱岐、対馬を除く7保健所で警報レベルの報告数となっています。年齢別では、5歳以下で8割以上を占めています。

今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。



★トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第38週の定点当たり報告数は「2.37」で、8週続けて減少しました。報告数は減少が続いていますが、今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。



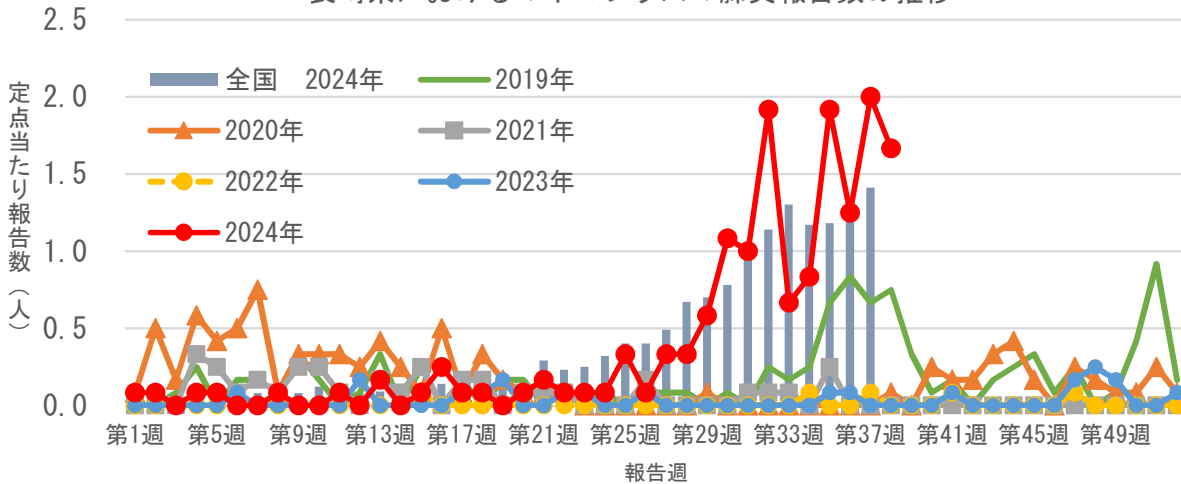
☆トピックス：マイコプラズマ肺炎の報告数が増加しています

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。全年齢で1年を通して報告があります。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛まつ感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。まれに重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎などの合併症がみられることもあります。

2024年は、7月中旬から報告数が増加し、第38週時点で既に過去5年の中で最大の患者報告数となっています。年代別では10歳未満が最も多く、そのうち5～9歳で全体の4割を占めています。

予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

長崎県におけるマイコプラズマ肺炎報告数の推移



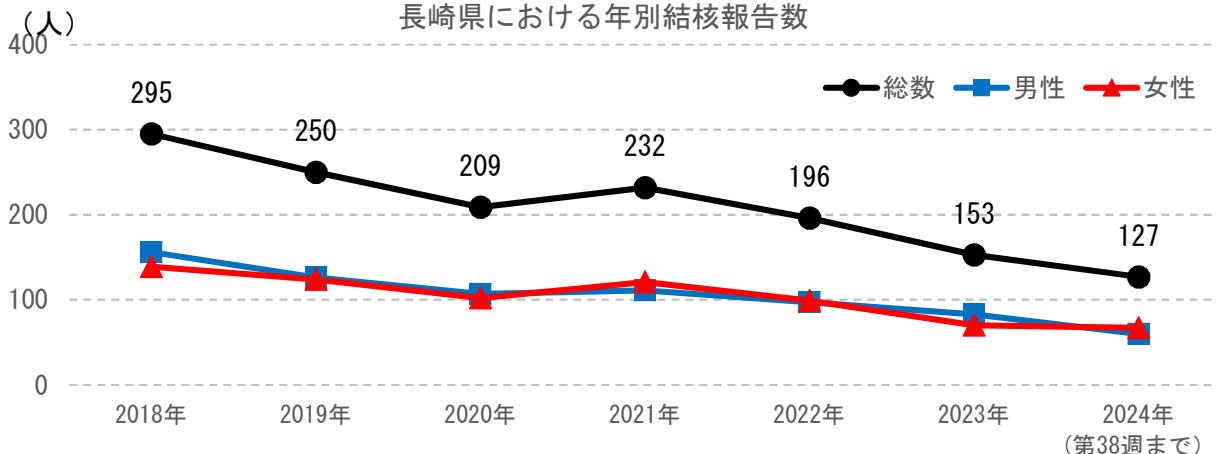
☆トピックス：9月24日から9月30日は結核・呼吸器感染症予防週間です

厚生労働省では、9月24日～30日を「結核・呼吸器感染症予防週間」と定め、結核と呼吸器感染症に関する正しい知識の普及啓発を図ることとしています。

結核は、結核菌の感染により起こる感染症で、咳、喀痰、微熱が典型的とされており、胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振等を伴うこともありますが、無症状の場合もあります。結核を発症した人がせきやくしゃみをする時、飛沫（しぶき）に含まれる結核菌が空気中で飛び散り、それを他の人が吸い込むことにより「感染」します。長崎県では、人口10万人当たりの結核罹患率が例年全国ワースト10位に入っており、2023年はワースト6位（9.8）でした（全国平均は8.1）。結核は、早期発見・早期治療が重要です。咳や痰、微熱、体のだるさなどの症状が2週間以上続く場合は、医療機関を受診しましょう。

呼吸器感染症には、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、RSウイルス感染症、細菌性肺炎などがあります。呼吸器感染症対策の基本は、手洗いやマスクの着用を含む咳エチケットです。秋、冬の呼吸器感染症の流行に備えて、感染予防に努めましょう。また、インフルエンザ等では、ワクチン接種により発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、かかりつけ医と相談のうえ、ワクチンを接種しましょう。

長崎県における年別結核報告数



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 無症状病原体保有者 女性（50代・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：レジオネラ症 患者 男性（80代以上・1名）

5類感染症(全数把握対象)：クロイツフェルト・ヤコブ病 患者 女性（70代・1名）

梅毒 患者 男性（20代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第33~38週、8/12~9/22)

疾患名	定点当たり患者数					
	33週 8/12~	34週 8/19~	35週 8/26~	36週 9/2~	37週 9/9~	38週 9/16~
インフルエンザ	0.13	0.27	0.21	0.06	0.06	0.19
新型コロナウイルス感染症	10.29	9.81	6.39	4.69	3.23	2.37
RSウイルス感染症	1.25	0.91	0.73	0.68	0.36	0.23
咽頭結膜熱	0.30	0.34	0.14	0.25	0.27	0.36
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.52	2.66	2.45	2.80	3.16	2.57
感染性胃腸炎	0.57	0.98	1.25	1.14	1.20	1.68
水痘	0.09	0.07	0.07	0.02	0.05	0.02
手足口病	4.61	6.05	8.23	7.59	9.07	7.70
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.02					
突発性発しん	0.23	0.30	0.30	0.41	0.32	0.20
ヘルパンギーナ	0.32	0.27	0.80	0.52	0.57	0.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02	0.02	0.14	0.02		0.07
急性出血性結膜炎	0.13			0.38	0.13	
流行性角結膜炎	0.13	0.63	0.13	0.50	0.75	0.50
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎				0.25	0.17	
マイコプラズマ肺炎	0.67	0.83	1.92	1.25	2.00	1.67
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第38週、9/16~9/22) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.19	0.45	0.12			0.45		0.25			
新型コロナウイルス感染症	2.37	2.45	3.88	3.33	1.33	0.82	1.50	3.00	2.50	3.67	0.33
RSウイルス感染症	0.23				0.50	0.43	0.80	0.33			
咽頭結膜熱	0.36		0.90		1.00	0.14		0.67			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.57	1.33	1.00	0.50	1.00	1.86	11.20	2.00	0.33		7.00
感染性胃腸炎	1.68	2.83	1.50	4.50	3.25	1.86	0.20	1.00	1.00		
水痘	0.02				0.25						
手足口病	7.70	8.83	6.20	1.50	7.00	12.14	13.80	6.00	4.33	4.00	
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.20		0.20	0.50	0.25	0.29	0.40			0.50	
ヘルパンギーナ	0.50	0.50	0.30	3.00		0.43	0.40	1.33		0.50	
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.07			0.50		0.29					
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.50		0.67				2.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	1.67	3.00	3.00	1.00		3.00	3.00	1.00			
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											